

## 水辺のトマソン

### 水面上にだけ設置された魚巣ブロック

存在がまるで芸術のようでありながら、その役にたたなさ・非実用において芸術よりももっと芸術らしい物を「超芸術」と呼び、その中でも不動産に属するものをトマソンと呼ぶ（Wikipedia より）。

河川改修などの際に、環境に配慮した工法が採用されるようになって久しい。川岸の擁壁に用いるコンクリートブロックに、魚類が隠れ場として利用できるようにと、空洞部を設けたものがよく用いられている。魚巣ブロックという。魚巣ブロックの設置は、環境に配慮した工法の代表格である。

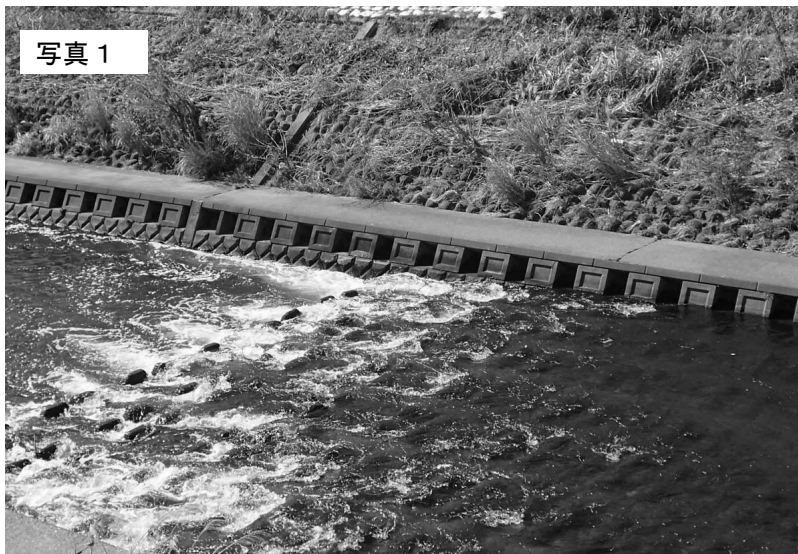


写真1

ところが、実際に施工されたところを見ると、トマソンと化していることが多い。写真1では上手（右側）に<sup>床</sup>固めがあり水面が高いため、一見、魚類が利用しやすい形で設置されているかのよう。しかし、下手には<sup>床</sup>固めがなく水面が低くなり、肝心の水面下に魚巣ブロックが設置されていないことが露呈している。擁壁の水中部分はのっぺりとしたコンクリートブロックでできている。これを設計した人は、魚類は空中で生活すると考えていたようだ。2016年2月13日撮影。

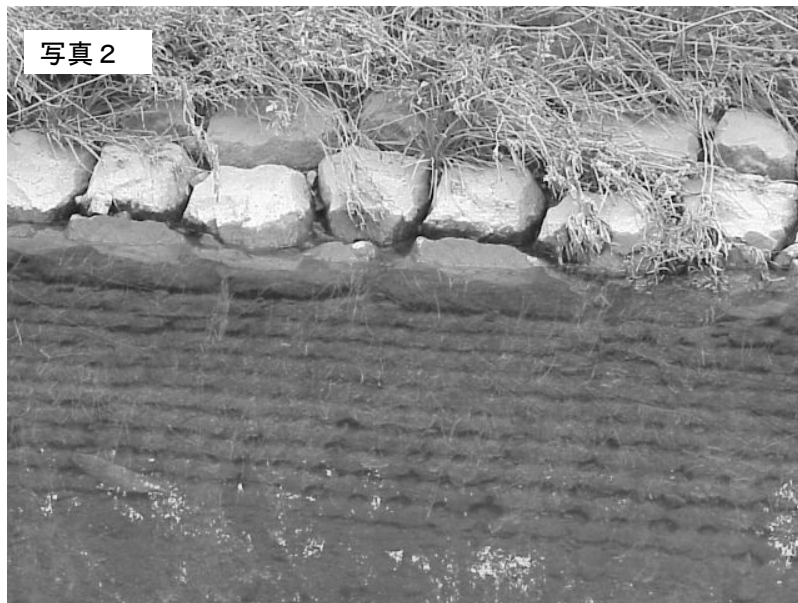


写真2

別の川では、石垣が積み重ねられて昔の環境が見事に再現されているかのように見える（写真2）。しかしここでも、水中には単純な形状のマットが敷かれているだけである。水面すれすれに左から7個の「石」が見えるが、目を凝らすと、2番目と5番目、3番目と6番目、4番目と7番目の形がそっくりである。石のように見えるコンクリートの既製品だろうか。だとするとまさに芸術。2003年10月27日撮影。

文責；齊藤憲治